

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
経口抗凝固剤（クマリン系抗凝固剤） ワルファリン	フェニルブタゾン、スルフィンピラゾン、ブコローム、ベンズプロマロン、フルコナゾール、サルファ剤（スルファメトキサゾール-トリメトプリムなど）、シメチジン、ジスルフィラム、メトロニダゾール、ケトコナゾール、ミコナゾール、フルボキサミン、フェノフィブラート、デラビルジン、フルバスタチン、ザフィルルカスト、アミオダロン、キニジンなど	注意	作用増強	凝固能の変動に十分注意しながら投与。
	バルビツレート系薬物（フェノバルビタールなど）、リファンピシン、カルバマゼピン、クロルジアゼポキシド、グルテチミド、カルバマゼピン、ナフシリン、グリセオフルビン、テルビナフィン、ネビラピン、リバビリン	注意	作用減弱	凝固能の変動に十分注意しながら投与。
	コレステラミン、スクラルファート	注意	コレステラミン：作用減弱 スクラルファート：作用増強	凝固能の変動に十分注意しながら投与。
	抗血小板薬（アスピリン、チクロピジン、シロスタゾール）、トロンボキササン	注意	作用増強	凝固能の変動に十分注意しながら投与。
	合成阻害薬（オザグレール）、プロスタグランジン薬（リマプロスト、アルプロスタジル）、ラマトロバン、レビパリン	注意	作用増強	凝固能の変動に十分注意しながら投与。
血液凝固阻止剤 ダナバロイド	セファロスポリン系抗生物質（セファゾリン、セフトetan、セファマンドール、セフォペラゾン、ラタモキシム、セフロキシム、セフメノキシム、セフチゾキシム、セフォセリスなど）		ビタミンK欠乏症を生じ、ワルファリンの作用を増強する	ワルファリン服用患者では腸内細菌叢を変化させるような抗菌薬の投与は慎重に。
	ビカルタミド、ホリナー	注意	作用増強	凝固能の変動に十分注意しながら投与。
	ビタミンK含有食品（納豆、ブロッコリー）の過摂取	注意	作用減弱	ワルファリン服用患者では左記食品は避けるよう指導すべき。
	ウロキナーゼ、プラスミノーゲン活性薬（t-PA、ヘパリン、アスピリン、ジピリダモール、チカルシリン、クロキサシリン	注意	作用増強	併用時には慎重に。

副作用

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
36. 中毒治療薬				
重金属その他の中毒治療薬 メスナ	イホスファミド	注意	脳症の発現リスク増加の可能性	観察を十分に行う。
37. 抗菌薬				
βラクタム抗生物質 ペニシリン系 アンピシリン	アロプリノール		皮疹の頻度増加?	併用を避ける必要はないが、皮疹の発現には注意。
セフェム系 第3世代 セファロスポリン系抗生物質	フロセミド、ポリミキシンB	注意など	他のセフェム系で、腎障害増強の報告	両者の併用時には腎機能観察を頻回に。
アミノ配糖体系 アミノグリコシド系抗生物質	筋弛緩薬	注意	呼吸抑制（神経筋遮断作用増強）	呼吸抑制が現れた場合、必要に応じChE阻害薬、Ca製剤の投与などの処置。
	ループ利尿薬、セファロスポリン系抗生物質、アムホテリシンB、シクロスポリン、タクロリムス、ペニシリン系抗生物質	注意	腎障害のリスク増加	両者の併用時には腎機能観察を頻回に。
			分解による効果減弱の可能性	両薬を同一点滴瓶内に混合しない。時間をずらすか別のルートで投与。
サルファ剤 スルファメトキサゾール-トリメトプリム その他の殺菌性抗生物質 バンコマイシン	シクロスポリン	注意	腎機能障害増強	特に腎移植後の患者では注意。
	デキサメタゾン		MRSA 髄膜炎などに対する効果が減弱する可能性	中枢以外の全身感染症では影響なし。
テイコプラニン	ループ利尿薬（フロセミド、エタクリン酸など）、アミノグリコシドまたはペプチド系抗生物質、アムホテリシンB、シクロスポリン、シスプラチン	注意	腎障害、聴覚障害を増強	併用回避が望ましいが、やむをえない場合は慎重に。
テトラサイクリン系 テトラサイクリン系抗生物質（ドキシサイクリンなど）	制酸薬（アルミニウム、カルシウム、マグネシウムを含むもの）、ビスマスプロサリチレート、オメプラゾール	注意	作用減弱	併用やむない場合には下記の注意を守る。 制酸薬によりテトラサイクリンの吸収が阻害されるので、投与間隔を1-2時間ずらすとよい。細菌性下痢の治療では同時併用は禁忌。投与間隔を2時間以上あける（テトラサイクリンを先に投与）。
クロラムフェニコール系 クロラムフェニコール	フェノバルビタール	注意	作用減弱	フェノバルビタールをベンゾジアゼピンなどに変更する。
マクロライド系 14員環系 クラリスロマイシン	オメプラゾール、リトナビル、インジナビル、アタザナビル	注意	CYP3A阻害によるクラリスロマイシン消失能低下により作用増強	

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
15 員環系 アジスロマイシン	マグネシウム、アルミニウム含有制酸薬	注意	吸収阻害による Cmax 低下	治療目的が消化性潰瘍あるいは胸焼けなどなら H ₂ 受容体遮断薬や PPI に変更する。
38. 化学療法剤				
キノロン系(ピリドンカルボン酸) ニューキノロン系 キノロン系抗菌薬 (エノキサシン, オフロキサシン, シプロフロキサシン, ノルフロキサシン, ロメフロキサシン, トスフロキサシン, ガチフロキサシンなど)	アルミニウム, マグネシウム含有制酸薬およびスクラルファート	注意	作用減弱	キノロン系服用後2時間以上あけて制酸薬などを服用する。
	フェンブフェン, ケトプロフェン, フルルピロフェン カルシウム含有制酸薬	禁忌 注意	けいれんの発現 作用減弱	特に高齢者では併用を避ける。 キノロン系服用後3時間以上あけて制酸薬などを服用する。
シプロフロキサシン	鉄剤	注意	作用減弱	キノロン系服用後3時間以上あけて制酸薬などを服用する。
	プロベネシド		作用と副作用増強の可能性	高尿酸血症治療が併用薬の目的であればアロプリノールに変更するのが無難。
	リファンピシン		抗菌効果減弱の可能性	併用時には効果に応じて処方薬の増量を考慮する。
	ミルクまたはヨーグルト		抗菌効果減弱の可能性	処方薬服用中は乳製品の摂取を禁ずる。
抗結核薬 リファンピシン	HIV 感染症治療薬 (インジナビル, サキナビル, ネルフィナビル, アンブレナビル, 硫酸アタザナビル, デラビルジン) またはブラジカンテルを投与中	禁忌	処方薬が併用薬の効果を減弱する	可能な限り併用は避ける。
39. 抗真菌薬				
トリアゾール系 イトラコナゾール	フェニトイン, リファンピシン	注意	併用薬により処方薬の代謝が促進され作用が減弱する	効果が不十分なら増量も考える。
	シメチジンなどの H ₂ 受容体拮抗薬, オメプラゾールなどのプロトンポンプ阻害薬, ジダノシン	注意	胃内 pH 上昇により処方薬の吸収が低下し作用が減弱する	両剤の投与間隔をできる限りあける。
	ピモジド, キニジン, トリアゾラム, シンバスタチン, アゼルニジピン, エルゴタミン, ジヒドロエルゴタミン, パルデナフィール, シサプリド投与中	禁忌	処方薬が併用薬の代謝阻害により効果と副作用を増強する可能性	処方薬服用中は CYP3A4 により代謝される薬物はできるだけ併用しないのが無難。
アリルアミン系 テルピナフィン	シメチジン	注意	作用増強	用量注意。

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
40. 抗ウイルス薬				
ヘルペスウイルス感染症治療薬 アシクロビル	プロベネシド	注意	腎排泄抑制（半減期延長，AUC 増加）	高尿酸血症治療が併用薬の目的であればアロプリノールに変更するのが無難。 併用やむない場合には副作用観察を頻回に。 併用は禁忌である。
	ミコフェノール酸モフェチル	注意	AUC 増加	
ビダラビン	ペントスタチン，インターフェロン	ペントスタチン：禁忌	肺毒性，腎不全，肝不全，神経毒性などの重篤な副作用の発現	
サイトメガロウイルス感染症治療薬 ガンシクロビル	プロベネシド	注意	処方薬の腎排泄低下による副作用増強	ガンシクロビルあるいはプロベネシドの減量，中止などの処置。 ガンシクロビルあるいはジドブジンの減量，中止などの処置。 副作用が生じた際には，ガンシクロビルあるいはモフェチルの減量，中止などの処置。 併用回避。
	ジドブジン	注意	作用増強，副作用増強	
ホスカルネット	ミコフェノール酸モフェチル	注意	副作用が現れるおそれ	
	アミノグリコシド系抗生物質，アムホテリシン B，シクロスポリン，ペンタミジン	注意 禁忌	腎障害を増強 副作用（腎障害，低 Ca 血症）増強	
HIV 感染症治療薬 核酸系逆転写酵素阻害薬（nRTIs） ジドブジン	ペンタミジン，ピリメタミン，スルファメトキサゾール-トリメトプリム，フルシトシン，ガンシクロビル，インターフェロン，ビンクリスチン，ビンプラスチン，ドキシソルビシン	注意	副作用増強	できるだけ併用の回避。
	メトトレキサート，シクロホスファミド，ビンクリスチン，ガンシクロビル，スルファジアジン，インターフェロン製剤，スルファメトキサゾール-トリメトプリム	注意	毒性作用増強	
ジダノシン	プロベネシド フルコナゾール，ホスフルコナゾール	注意 注意	作用増強 処方薬濃度 80% 増加	投与間隔をあける。 併用やむない場合には処方薬の副作用を頻回に観察。 ジダノシンの減量を考慮。
	テノホビル，ガンシクロビル	注意	副作用増強の可能性	
ラミブジン	リバビリン スルファメトキサゾール-トリメトプリム	注意 注意	副作用増強の可能性 AUC 増加，全身クリアランス，腎クリアランス減少	できるだけ併用の回避。 併用やむない場合以外は回避。
	ザルシタピン	注意	作用減弱	
アバカビル	エタノール飲用	注意	濃度増加するが効果に対する影響は不明	併用は避けることが望ましい。 飲酒は慎むのが無難である。

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
テノホビル	アシクロビル, バラシクロビル, ガンシクロビル	注意	作用増強	併用やむない場合以外は回避。
エファビレンツ	リファンピシン	注意	作用減弱	併用する場合, エファビレンツの投与量を 800 mg/日に増加。リファンピシンの用量調節は推奨されない。
デラビルジン	カルバマゼピン, フェニトイン, フェノバルビタール, アンブレナビル	注意	併用薬による CYP 誘導により処方薬の効果低下の可能性	併用やむない場合以外は回避。
プロテアーゼインヒビター (PIs)	アルミニウムまたはマグネシウム含有制酸薬, プロトンポンプ阻害薬	注意	処方薬の吸収低下による抗ウイルス効果の減弱の可能性	1 時間以上投与間隔を開ける。
アタザナビル	クラリスロマイシン	注意	併用薬による CYP 3A 阻害により作用が増強する	クラリスロマイシンを半量に減量して投与を考慮。
	エファビレンツ	注意	併用薬の CYP 3A 誘導作用により処方薬の代謝を促進し作用が減弱する	CYP 3A 阻害薬のリトナビルを併用しない際は, エファビレンツの使用は推奨されない。
	テノホビル	注意	併用薬の CYP 3A 誘導作用により処方薬の代謝を促進し作用が減弱する	CYP 3A 阻害薬のリトナビルを併用しない際は, テノホビルの使用は推奨されない。
サキナビル	カルバマゼピン, フェニトイン, フェノバルビタール, リファンピシン, デキサメタゾン	リファンピシン: 禁忌 他: 注意	作用減弱	リファンピシンの投与を受けた患者にサキナビルを投与する場合には, 少なくとも 2 週間の間隔をおくことが望ましい。
	ネルフィナビル, デラビルジン, リトナビル, グレープフルーツジュース	投与禁忌など	処方薬が併用薬の代謝を阻害し副作用を増強する	できるだけ併用の回避。
リトナビル	リファンピシン, フェニトイン, カルバマゼピン, フェノバルビタール, エファビレンツ	注意	リファンピシンの AUC が減少	できるだけ併用の回避。
インジナビル	リファンピシン, 西洋オトギリソウ (セントジョーンズ・ワート)	注意	処方薬の代謝促進により抗ウイルス効果低下のおそれ	できるだけ併用の回避。
	ジダノシン	注意	処方薬の濃度低下	やむなく併用の場合には投与時間を開ける。
	テルフェナジン, アステミゾール, シサプリド, トリアゾラム, ミダゾラム, アルプラゾラム, イトラコナゾール, ネルフィナビル, リトナビル, ケトコナゾール, デラビルジン	禁忌	併用薬の毒性増強	できるだけ併用の回避。
ネルフィナビル	インジナビル, サキナビル, リトナビル, デラビルジン, アジスロマイシン	注意	作用増強 (血中濃度上昇)	できるだけ併用の回避。
アンブレナビル	リファンピシン, フェノバルビタール, フェニトイン, カルバマゼピン, エファビレンツ	リファンピシン: 禁忌, 他: 注意	作用減弱	リファンピシンの投与を受けた患者にアンブレナビルを投与する場合には, 少なくとも 2 週間の間隔をおくことが望ましい。

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
	インジナビル, サキナビル, ネルフィナビル, イトラコナゾール, ケトコナゾール, デラビルジン	注意	作用増強	併用やむない場合には副作用の頻回なモニターを行う。
41. 寄生虫・原虫用薬				
トリコモナス治療薬 メトロニダゾール	飲酒, リトナビル	注意	ジスルフィラム様反応(頭痛, 頻脈, 発汗, 悪心, 嘔吐など)の出現	処方薬の投与は避ける。飲酒は禁止。
吸虫駆除薬 プラジカンテル	フェニトイン, カルバマゼピン	注意	処方薬の薬理効果の低下の可能性	併用やむない状況はてんかん患者などと推測されるため, 処方薬の効果を観察しつつ, 必要な場合には慎重な増量。
	シメチジン	注意	処方薬の効果と毒性増強の可能性	慎重な臨床効果の観察と, 必要なら処方薬の減量。
42. 抗癌剤				
アルキル化剤 シクロホスファミド イホスファミド ブスルファン	アロプリノール	注意	処方薬の効果と毒性増強の可能性	慎重な臨床効果の観察と, 必要なら処方薬の減量。
	メスナ	注意	併用例で脳症発症の報告, 因果関係不明	併用するには慎重な臨床観察が必要。
	シスプラチン	注意	骨髄抑制作用の増強の可能性	併用するには慎重な臨床観察が必要。
	カルバマゼピン, フェニトイン		処方薬の薬理効果の低下の可能性	処方薬の臨床効果の慎重な観察。本来処方薬の吸収には個人差が大きいので一律の増量は疑問である。
	イトラコナゾール	注意	骨髄抑制作用の増強の可能性	併用するには慎重な臨床観察が必要。本来処方薬の吸収には個人差が大きいので一律の減量は疑問である。
代謝拮抗剤 6-メルカプトプリン	メトトレキサート		骨髄抑制作用の増強の可能性	処方薬濃度の変化は少ないので臨床的意義は不明。慎重な臨床観察は必要。
	アロプリノール	注意	骨髄抑制作用の増強の可能性	併用時には処方薬投与量を1/3-1/5に減少する必要がある。
	スルファサラジン, 5-アミノサリチル酸	注意	骨髄抑制作用の増強の可能性	慎重な臨床効果の観察と必要なら処方薬を減量する。
	ロイコポリン		骨髄抑制作用の増強の可能性	臨床的にはしばしば併用される。慎重な臨床観察。
フルオロウラシル (5-FU)	インターフェロンアルファ		骨髄抑制作用の増強の可能性	臨床的に併用やむない場合には処方薬の臨床効果を慎重に観察。
	カルバマゼピン, フェニトイン		処方薬の薬理効果の低下の可能性	臨床的意義は不明。
	ニフェジピン, イトラコナゾール, シクロスポリン	注意	骨髄抑制作用の増強の可能性	臨床症状の慎重な観察と必要に応じて処方薬を減量あるいは休薬する。
アルカロイド系 ビンクリスチン				

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
抗生物質抗癌剤 ドキシソルピシン	エリスロマイシン, イトラコナゾール	注意	骨髄抑制作用の増強の可能性	臨床症状の慎重な観察と必要に応じて処方薬を減量あるいは休薬する。
	シクロスポリン	注意	骨髄抑制作用の増強の可能性	処方薬使用中の患者には併用薬の投与は控えるべき。
	イトラコナゾール, マクロライド系抗生物質, テルフェナジン, カルシウム拮抗薬, ジアゼパム, トリアゾラム, ミダゾラム	注意	骨髄抑制作用の増強の可能性	臨床症状の慎重な観察と必要に応じて処方薬を減量あるいは休薬する。
	ベラパミル	注意	骨髄抑制作用の増強の可能性	臨床症状の慎重な観察と必要に応じて処方薬を減量あるいは休薬する。
	シクロスポリン, パクリタキセル		骨髄抑制作用の増強の可能性	臨床症状の慎重な観察と必要に応じて処方薬を減量あるいは休薬する。
	パクリタキセル		骨髄抑制作用の増強の可能性	臨床的に併用の高い薬物であるので, 併用時には慎重な臨床観察が必要。
	G-CSF 製剤 (ナルトグラステムなど) シスプラチン		間質性肺炎リスク増加の可能性 処方薬の効果および毒性の増強の可能性	理論上は可能だが, 臨床意義は不明。 臨床症状の慎重な観察と必要に応じて処方薬を減量する。
	フェニトイン, フェノバルビタール シクロスポリン, キニジン		処方薬の薬理効果の低下の可能性 処方薬の効果および毒性の増強の可能性	臨床的な意義は不明。 併用薬を高用量で静注使用した場合にみられる。臨床症状を観察し, 必要なら処方薬の投与量を50%減量する。
	CYP 3A4 阻害作用を有する薬物 (アゾール系抗真菌薬, マクロライド系抗生物質, グレープフルーツジュースなど) アタザナビル	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性 処方薬の効果および毒性の増強の可能性	併用薬はCYP 3A 阻害作用のない同効薬に変更する。アムホテリシン B, β ラクタム薬など。 アタザナビルの併用は推奨されない。併用やむない場合は処方薬の投与薬の副作用を注意深く観察し, 必要なら減量する。
白金製剤 シスプラチン	アミノグリコシド系抗生物質 (ゲンタマイシン, トブラマイシン, アルベカシンなど)	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性	グラム陰性菌治療ならアズトレオナムなど腎毒性の少ない薬物に変更。併用やむない場合には腎機能のモニターを慎重に行う。
カルボプラチン	アミノグリコシド系抗生物質 (ゲンタマイシン, トブラマイシン, アルベカシンなど)	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性	グラム陰性菌治療ならアズトレオナムなど腎毒性の少ない薬物に変更。併用やむない場合には腎機能のモニターを慎重に行う。

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
分子標的治療薬 イマチニブ	リファンピシン, カルバマゼピン, デキサメタゾン	注意	処方薬の薬理効果の低下の可能性	慎重な臨床効果の観察を行い, 必要なら処方薬の投与量を50%程度増量する必要がある。ただし, 併用薬中止時には投与量を元に戻す必要がある。
ゲフィチニブ	アゾール系抗真菌薬 (イトラコナゾールなど), マクロライド系抗生物質 (クラリスロマイシンなど)	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性	慎重な臨床効果観察と必要なら処方薬の減量が必要。
	プロトンポンプ阻害薬 (オメプラゾールなど), ヒスタミンH ₂ 受容体遮断薬 (ファモチジンなど)	注意	処方薬の薬理効果の低下の可能性	制酸効果のある薬物はすべて相互作用を生じるので消化性潰瘍治療では代替薬はスルラルファートなどの粘膜保護剤のみ。慎重な臨床観察と必要なら処方薬増量。
	リファンピシン, フェニトイン, カルバマゼピン, フェノバルビタール, セントジョーンズ・ワート含有食品・ある種の漢方薬	注意	処方薬の薬理効果の低下の可能性	併用やむない場合には, 慎重な臨床観察のもとに処方薬の増量を考える。
その他の抗癌剤 プロカルバジン	イトラコナゾール, リトナビル, インジナビル, ベラパミル, マクロライド系抗生物質	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性	慎重な臨床効果観察と必要なら処方薬の減量が必要。
	フェノバルビタール, フェニトイン, カルバマゼピン		処方薬の効果および毒性の増強の可能性	慎重な臨床効果観察と必要なら処方薬の減量が必要。
43 免疫抑制剤				
シクロスポリン	フェノバルビタール, カルバマゼピン, フェニトイン, リファンピシン, セントジョーンズ・ワート, ベラパミル	注意	処方薬の薬理効果の低下の可能性	慎重な臨床観察と処方薬のTDMを行い, 必要なら処方薬を増量する。ただし併用薬を中止する場合には減量を行わないと過量投与となる可能性がある。
	ピタバスタチン	禁忌	併用薬の血中濃度が通常よりも高くなり効果が増強する可能性	処方薬による高脂血症治療にスタチン薬を使用する場合には水溶性スタチン (プラバスタチン) に変更。
	ジルチアゼム, ベラパミル, アムロジピン, グレープフルーツジュース, マクロライド系抗生物質, フルボキサミン	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性	慎重な臨床効果観察と処方薬のTDMにより必要なら処方薬の減量が必要。
	カリウム保持性利尿薬 (スピロラクトン, トリアムテレン, アミロリド), アンジオテンシン変換酵素阻害薬	注意	処方薬の腎障害による高カリウム血症のリスク増加	利尿薬はチアジド系 (ただし高尿酸血症に注意) あるいはループ利尿薬に変更。

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
アザチオプリン	アミノグリコシド系抗生物質, アムホテリシン B, 非ステロイド性抗炎症薬, スルファメトキサゾール-トリメトプリム, ガンシクロビル, アンジオテンシン変換酵素阻害薬	注意	処方薬の腎毒性作用増加	併用やむない場合には頻回の腎機能モニタリング。
	ダナゾール, エストラジオール, エリスロマイシン, ジョサマイシン, オレアンドマイシン, クラリスロマイシンなどのマクロライド系抗生物質, イトラコナゾール, フルコナゾール, シメチジン, メトロニダゾール, メルファラン, メチルテストステロン, グレープフルーツジュース, シプロフロキサシン, ノルフロキサシン, タクロリムス, ビタミン E, インターフェロン製剤	タクロリムスは禁忌, 他は注意	処方薬の腎毒性作用増加	併用やむない場合には処方薬の TDM により投与量を調節する。慎重な臨床観察と腎機能モニタリングが必要。
	アロプリノール	注意	処方薬の毒性（骨髄抑制など）増強のおそれ	併用時には処方薬の薬用量を 1/3-1/5 に減量するのがよいとされている。
	スルファサラジン, メサラジン	注意	処方薬の毒性（骨髄抑制など）増強のおそれ	慎重な臨床観察と必要なら処方薬の減量。
タクロリムス	エリスロマイシン, クラリスロマイシン, ベラパミル, ジルチアゼム, ニルバジピン, ニフェジピン, デキサメタゾン, エチニルエストラジオール, イトラコナゾール, グレープフルーツジュース, プロモクリプチン, ダナゾール, フルコナゾール, リトナビル	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性	慎重な臨床観察と処方薬の TDM による投与量補正が重要。
	リファンピシン, フェニトイン, セントジョーンズ・ワート	注意	処方薬の薬理効果の低下の可能性	慎重な臨床観察と処方薬の TDM による投与量補正が重要。
ミコフェノール酸モフェチル	アシクロビル, バラシクロビル, ガンシクロビル	注意	処方薬の毒性（骨髄抑制など）増強のおそれ	慎重な臨床観察による処方薬の投与量調節。
	鉄剤, アルミニウムあるいはマグネシウムを含む制酸薬, コレスチラミンなどの陰イオン交換レジ	注意	処方薬の薬理効果の低下の可能性	併用薬を多価陽イオンを含まない酸分泌抑制薬 (H ₂ 受容体遮断薬あるいは PPI) に変更する。高脂血症治療はスタチン薬などに変更。
	タクロリムス	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性	報告により差異があり臨床意義は明らかでない。慎重な観察が必要。
	麻疹・風疹ワクチン, ポリオワクチン	禁忌	処方薬の作用は不変	併用薬の免疫獲得作用が不十分となるだけでなく, 時に弱毒ワクチンウイルス発症も類薬で報告がある。

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
44. インターフェロン・インターロイキン製剤				
インターフェロン製剤 インターフェロン（アルファまたはベータ）	小柴胡湯 カプトプリル，エナラプリル	禁忌	処方薬の毒性増強のおそれ（間質性肺炎）？ 処方薬の顆粒球減少作用の増強？	小柴胡湯の併用は避ける。他の成分的に類似のものも避けるのが無難。併用薬を他の降圧薬などに変更するか、慎重な血液モニタリングが推奨される。
45. 眼科用薬				
緑内障治療薬 チモロール	キニジン，パロキセチン	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性	CYP2D6阻害作用のない抗不整脈薬（クラスⅠではジソピラミド，ビルジカイニドなど）に変更。パロキセチンは古典的な三環系抗うつ薬に変更が勧められる。
点眼用チモロール	キニジン，ベラパミル	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性	CYP2D6阻害作用のない抗不整脈薬（クラスⅠではジソピラミド，ビルジカイニドなど）に変更。
46. 口腔用薬				
口腔内乾燥症状改善薬 セビメリン	コリン作動薬（ベタネコールなど），抗コリンエステラーゼ薬（ネオスチグミン，アンペノニウムなど），アセチルコリン放出作用薬（シサプリド，モサプリド） アトロピン，スコポラミン，フェノチアジン系薬物，三環系抗うつ薬	注意 注意	処方薬のコリン作動効果増強 処方薬のコリン作動効果低下	処方薬の臨床適応によるが，シェーグレン症候群などで処方薬服用が必須であれば併用薬の投与を避けるか，ごく少量から開始するのが無難。
	CYP2D6阻害薬（キニジンなど），CYP3A4阻害薬（エリスロマイシン，イトラコナゾール，シメチジンなど） CYP3A4誘導薬（リファンピシンなど）	注意 注意	処方薬の効果と毒性増強 処方薬の作用減弱の可能性	処方薬の適応から考えてアトロピンなどの抗コリン薬の処方が必要になる状況は少ないと思われる。抗精神薬では非定型的薬物（オランザピンなど），抗うつ薬ではSSRIに変更が勧められる。 処方薬の減量か，CYP阻害作用のない併用薬に変更。 臨床的な意義は不明だが，必要に応じて処方薬を増量する。ただし，併用薬中止時に適切な減量が必要である。
47. 麻薬				
アヘンアルカロイド系 モルヒネ	リファンピシン		処方薬の作用減弱の可能性	鎮痛効果を観察しつつ，必要なら増量する。ただし，併用薬中止時に適切な減量が必要である。

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
コデイン	ジクロフェナク		処方薬の作用増強	慢性疼痛に通常でも使用される組み合わせ。コデイン作用が増強される可能性があるので好ましい相互作用といえる。
非アルカロイド系 ペチジン	フェノバルビタール	注意	処方薬の中枢抑制作用の増強	併用薬を高用量で使用する場合には注意が必要。必要なら処方薬の減量。併用薬の投与は避ける。抗うつ薬としては SSRI などに変更。結核治療などのイソニアジドの投与が必要な場合にはペチジンをオピオイドなどに変更。
..	モノアミン酸化酵素 (MAO) 阻害薬 (サフラジンなど) と MAO 阻害作用のある薬物 (イソニアジドなど)	禁忌または注意	処方薬による中枢興奮、錯乱、呼吸循環不全作用出現の可能性	飲酒は禁止。HIV 治療でリトナビル服用が必要な場合はペチジン減量。ミダゾラムは麻酔導入時に併用する場合があるが、血圧変化に注意。フェノチアジン系薬物の併用時には処方薬の投与量を慎重に減量する。処方薬の投与量を効果を観察しつつ、必要な場合には慎重に減量する。
フェンタニル	飲酒、リトナビル		処方薬の中枢抑制作用の増強	
	ミダゾラム、フェノチアジン系薬物 (ペルフェナジンなど)	注意	処方薬の中枢抑制作用の増強	
	リトナビル	注意	処方薬の中枢抑制作用の増強	
48. 麻酔薬				
全身麻酔薬				
麻酔薬 (全身麻酔薬) (シクロプロパン、エンフルラン、ハロタン)	カテコールアミン (アドレナリンなど)	注意	不整脈発生	処方薬投与が術中などに必要な場合には慎重な心電図観察と投与量の減量が必要。
イソフルラン	ジスルフィラム		処方薬の効果増強	術前に十分時間をあけて併用薬を中止しておく。
局所麻酔薬				
リドカイン	メキシレチン		処方薬の効果および毒性の増強の可能性	処方薬と併用薬の併用は薬理的な観点から必要性が少ない。
	シメチジン、プロプラノロール、アミオダロン、プロパフェノン		処方薬の効果および毒性の増強の可能性	リドカインの TDM を行い投与量調節を行う。
49. 生活改善薬				
勃起不全治療薬 (薬価基準適用外)				
シルденаフィル (バイアグラ)	硝酸薬 (ニトログリセリン、イソソルビドなど)	禁忌	処方薬の効果および毒性の増強	ED 治療をシルденаフィルで行っている患者では、狭心症治療には β 受容体遮断薬か Ca チャネル遮断薬を用いるべき。
	アンブレナビル、リトナビル、ケトコナゾール、デラビルジン、サキナビル、その他の CYP3A 阻害薬 (クラリスロマイシンなど)	注意	処方薬の効果および毒性の増強	CYP3A4 阻害作用のない類薬に変更する (II. 参照)。

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
経口避妊薬(薬価基準適用外) 経口避妊薬(ピル)	カルバマゼピン, フェノバルビタール, フェニトイン, リファンピシン, プリミドン, エトスクシミド, グリセオフルビン, セントジョーンズ・ワート アトルバスタチン	注意	処方薬の効果減少による避妊失敗 処方薬の効果はおそらく不変	CYP 3A 誘導作用のない類薬に変更。 処方薬の濃度変化は少ないので臨床的意義は不明だが, 他の相互作用報告のないスタチン(プラバスタチンなど)への変更が無難である。
50. その他の治療薬				
ダブソン	リファンピシン, カルバマゼピン, フェニトイン アムホテリシンB, アミノグリコシド系抗生物質, スルファメトキサゾール-トリメトプリム リトナビル, シメチジン	注意	処方薬の抗菌作用低下の可能性 処方薬の効果は不変 処方薬の効果と毒性増加の可能性	リファンピシンの併用時にはダブソン投与量を必要に応じて増量。抗てんかん薬であれば臨床的に可能であればバルプロ酸などに変更。 ダブソンの腎障害はネフローゼ症候群や乳頭壊死など長期の障害が主体であるので, 短期的には併用はさほど問題にならないと考える。代替抗真菌薬としてはイトラコナゾールなどがあるが, この薬物はダブソン代謝を阻害するので注意が必要である。アミノグリコシドは可能ならアズトレオナムなどに変更。 シメチジンはPPIへ変更が可能。
アルツハイマー型認知症治療薬 ドネペジル	カルバマゼピン, フェノバルビタール, フェニトイン, リファンピシン, デキサメタゾン キニジン, ケトコナゾール	注意 注意	処方薬の効果減少の可能性 処方薬の効果と毒性増加の可能性	慎重な臨床観察による処方薬の増量。ただし, 併用薬中止時には減量を忘れないようにする。 臨床的意義は不明。
ミオクローヌス治療薬 ピラセタム	T ₃ (リオチロニン), T ₄ (レボチロキシン)	注意	中枢症状の出現	併用薬投与が必要な場合には他に代替薬がないので, 処方薬を中止するべき。

V. 食品、栄養因子などと薬物相互作用

食品もしくは栄養因子	薬物の代謝動態への影響
グレープフルーツジュース (GFJ)	GFJの含有成分が主として消化管上皮に発現している GYP 3 A 4 を阻害するため、ジヒドロピリジン系 Ca 拮抗薬 (フェロジピン, ニソルジピン, ニカルジピン, ニトレンジピン, アゼルジニピンなど) の血中濃度 - 時間下面積 (area under the curve: AUC) が 300 - 600% まで増加し、降圧効果の増強もしくは低血圧に伴う副作用の可能性が生じる。ニソルジピンに対する GFJ の代謝抑制効果は 3 日間持続する。原因物質として、最近ではフラノクマリン系物質 (例えばベルガモチンなど) などが想定されている。トマトやオレンジジュースは相互作用を生ずることはない。薬物相互作用を避けるためには、いずれにしろ最少必要薬物を水と服用することである。ミダゾラム、アルプラゾラムやトリアゾラムの AUC が約 60% まで増加。抗てんかん薬カルバマゼピン、抗エイズ薬サキナビルおよびネルフィナビルなどやシクロスポリン、エチニルエストラジオール、アミオダロン、メチルプレドニゾロン、デキサメタゾンなどの CYP 3 A 4 により代謝される薬物 (II. 参照) の血中濃度が増加する。新規アンジオテンシン II 受容体拮抗薬ロサルタンの代謝を約 30% 低下させることも知られている。シクロスポリンの AUC が 50 - 60% まで増加。GFJ と HMG - CoA 還元酵素阻害薬アトルバスタチンの相互作用ではアトルバスタチンの AUC が 40% 増加するとされ、横紋筋融解症発現の原因となりうるとの症例報告もある。
オレンジジュース	β 受容体遮断薬のセリプロロールの AUC を約 80% 低下させる。臨床的意義は明らかでないものの、同薬服用患者にはオレンジジュースの飲用は勧められない。
ピリドキシン (ビタミン B ₆)	レボドパの代謝亢進または崩壊の増加。フェニトインまたはフェノバルビタールの血中濃度が約 35 - 45% 低下。
葉酸	フェニトインの血中濃度が低下。
アスコルビン酸 (ビタミン C)	エチニルエストラジオールの AUC が 60% までに増加。
炭火焼き肉・燻製食品 (charcoal broiled または smoked foods)	テオフィリンの排泄半減期が 20% 以上短縮。
高蛋白食	テオフィリンの排泄半減期の短縮およびプロプラノロールの経口クリアランス増加。
高炭水化物・低蛋白食	テオフィリンの代謝クリアランスが約 20% 低下。
高脂肪食	シクロスポリンのクリアランス増加。
魚油 (fish oil)	ワルファリンの作用増強。
ビタミン K を含有する食品 (納豆, クロレラ食品など)	ワルファリンの作用減弱。
喫煙	CYP 1 A 2 誘導によるテオフィリン, ジアゼパム, プロプラノロールなどの濃度低下。
セントジョーンズ・ワート (西洋オトギリソウ)	成分中の hyperforin が消化管粘膜および肝細胞中の CYP 3 A 4 を誘導するため、同分子種により代謝される多くの薬物のクリアランスが増加し、血中濃度が低下する。代表的な薬物は、カルバマゼピン, シクロスポリン, 抗 HIV 薬 (インジナビル, ネルフィナビルなど), ジゴキシンなど多数にのぼる。

薬物の副作用と相互作用索引

*この索引は、A. 副作用症状、B. 相互作用薬物名に分かれています。

A. 副作用症状

6 リン酸ブドウ糖脱水素酵素 (G-6-PD) 非依存溶血性貧血 1285
ADH 分泌不適合症候群 1279
ADH 分泌抑制症候群 1280
APL 分化症候群 1299
B 型肝炎 1292
Churg - Strauss 症候群 1289
CK (CPK) 上昇 1295
DIC 1285
G-6-PD 依存溶血性貧血 1285
LDL コレステロール上昇 1281
Lyll 症候群 1283
PIE 症候群 1288
QRS 延長症候群 1287
QT 延長症候群 1287
S 状結腸穿孔 1291
Stevens - Johnson 症候群 1282
torsades de pointes 1287

ア行

悪性症候群 1298
悪性新生物 1299
悪夢 1299
アジソン病様症候群 1279
アナフィラキシー 1278
アレルギー性紫斑病 1285
意識障害 1299
意識消失 1287
意識低下傾向 1299
一過性 CPK 上昇 1295
一過性肝機能異常 1292
一過性健忘症 1299
咽頭喉頭感覚異常 1295
インフルエンザ症候 1292
インフルエンザ脳炎・脳症 1298
インフルエンザ様症候群 1278
インポテンス 1279
うつ病様症候群・うつ傾向 1298
うとうと状態 1299
横紋筋融解症 1295
悪心 1298
悪心・嘔吐 1290

カ行

過強陣痛 1293
喀痰増加 1289
角膜混濁・沈着物 1293
仮性脳腫瘍 1298
顎下腺炎 1295
過敏症 1300
過敏性症候群 1284
顆粒球減少症 1284
眼球振盪 1294
眼筋調節障害 1294, 1298
肝細胞性肝障害 1291
間質性腎炎 1293
間質性肺炎 1288
眼周囲浮腫 1294
肝腫大 1292
肝静脈閉塞症 1292
眼振 1294
眼性天疱瘡 1294
関節炎・関節痛 1296
肝・胆道障害 1292
眼底出血 1294
眼内圧亢進 1294
肝不全 1292
顔面紅潮・発赤 1284
記憶障害 1299
期外収縮 1287
気管支けいれん 1289
気道閉塞 1288
偽膜性大腸炎 1290
逆流性食道炎 1292
嗅覚脱失 1295
球後視神経炎 1294
吸収不良 1291
急性呼吸促進症候群 1289
狭心症 1286
強直性子宮収縮 1293
胸膜炎 1289
虚(乾性)咳 1288
虚血性大腸炎 1292
虚血性腸炎 1292
巨大赤芽球(悪)性貧血 1285
ギラン・バレー症候群 1297
筋炎 1296
筋障害症 1295
筋痛 1295
筋力低下 1295
くるぶし浮腫 1284
憩室炎 1292
けいれん 1297
血圧低下 1287

結核 1289
血管炎症候群 1278
血管神経性浮腫 1278
血管迷走神経反応 1299
血小板減少症 1284
血小板増多症 1285
血清脂質上昇 1281
血清病 1278
結石 1293
結節性紅斑 1283
血栓性静脈炎 1288
血栓塞栓症 1287
結腸壊死 1292
下痢 1291
幻覚状態 1299
腱断裂 1296
高アンモニア血症 1282
高ガストリン血症 1279
口渴 1290
高カリウム血症 1280
高カルシウム血症 1281
口腔咽頭カンジダ症 1288
口腔潰瘍 1290
高血圧 1286
高血糖 1281
好酸球性肺炎 1289
好酸球増多 1285
高シアン血症 1282
甲状腺機能亢進症 1279
甲状腺機能低下症 1279
抗精神病薬誘起性悪性症候群 1298
光線過敏症 1283
光線過敏性皮膚炎 1283
口内炎 1290
高尿酸血症 1281
紅斑性狼瘡様症候群 1278
高比重リポ蛋白コレステロール低下 1281
高ビリルビン血症 1282
後腹膜線維症 1293
高プロラクチン血症 1279
高ホモシステイン血症 1282
高リポ蛋白血症 1282
呼吸困難 1289
呼吸抑制 1288
骨壊死 1296
骨粗鬆症 1296
骨痛 1296
骨軟化症 1296
固定薬疹 1283
コリン作動性クレーゼ 1299

サ行

再生不良性貧血 1284
 催眠 1299
 催眠障害 1299
 痤瘡 1283
 視覚異常 1294
 耳下腺炎 1295
 歯牙変色 1290
 色覚異常 1294
 色素沈着 1283
 色素性網膜症 1294
 子宮頸管裂傷・破裂 1293
 自己免疫現象 1299
 自殺企図 1299
 視神経炎 1294
 視神経症 1294
 ジスルフィラム様症候群 1299
 持続勃起 1293
 失神 1299
 歯肉増殖 1290
 脂肪萎縮症 1282
 脂肪肝 1292
 視野・視力障害 1294
 射精障害 1279
 重症筋無力症様症候群 1296
 出血傾向 1285
 出血性大腸炎 1291
 出血性タンポナーデ 1287
 出血性膀胱炎様症候 1293
 腫瘍出血 1299
 腫瘍崩壊症候群 1282
 循環不全(ショック)症候群 1287
 消化管壊死 1292
 消化管症状 1300
 消化管穿孔 1292
 消化性潰瘍・出血 1290
 硝子体出血 1294
 小腸潰瘍 1290
 小腸穿孔 1290
 静脈炎 1287
 食道穿孔・潰瘍 1292
 徐脈 1287
 真菌感染症 1299
 心筋梗塞 1287
 心筋症 1286
 心血管系症状 1300
 シンコニズム 1298
 心室細動 1287
 腎集合管 ADH 拮抗症候群 1280
 振戦 1298
 心停止 1287
 心伝導障害 1288
 腎毒性 1292
 腎尿細管性アシドーシス 1282, 1293

心破裂 1287
 心不全 1286
 腎不全 1293
 心ブロック 1287
 心包炎 1286
 心房細動 1287
 心膜炎 1287
 じん麻疹 1283
 肺炎 1291
 錐体外路系障害 1296
 頭蓋内圧上昇 1298
 頭痛 1298
 精神神経障害 1299
 精神神経症状 1299
 性欲減退 1279
 赤芽球癆 1285
 セロトニン症候群 1299
 線維筋症 1296
 全身性の疼痛 1299
 喘息様症候 1288
 前庭器機能障害 1295
 喘鳴 1289
 せん妄錯乱状態 1299
 総コレステロール上昇 1281
 躁病 1299
 足指紫色壊死症候群 1284

タ行

体液貯留 1286
 代謝性アシドーシス 1281
 体重増加 1282
 苔癬性発疹 1283
 耐糖能低下 1281
 大動脈瘤 1287
 唾液腺腫 1290
 多形性紅斑 1282
 多幸症 1299
 脱髄疾患 1299
 脱毛 1283
 多尿 1293
 多嚢胞性卵巣症候群 1279
 多毛症 1283
 胆汁うっ滞性肝障害 1292
 胆石症 1292
 チアノーゼ 1287
 知覚異常 1298
 着色尿 1293
 注意力低下 1299
 中心性漿液性網脈絡膜症 1294
 中毒性表皮剝脱症 1283
 腸管穿孔・閉塞 1292
 腸管麻痺 1292
 腸閉塞類似症候群 1291
 低エストロゲン症候 1279
 低カリウム血症 1281
 低カルシウム血症 1281
 低血圧 1286

低血糖 1281
 低酸素症 1289
 低ナトリウム血症 1280
 低マグネシウム血症 1281
 点眼薬による全身性副作用 1294
 天疱瘡様皮疹 1284
 統合失調症様症候 1298
 疼痛症状 1300
 洞停止 1287
 突発性傾眠 1299
 トリグリセリド上昇 1281

ナ行

難聴 1295
 乳酸性アシドーシス 1282
 乳頭浮腫 1294
 乳房肥大 1279
 乳漏症 1279
 尿細管壊死 1292
 尿失禁 1293
 尿濃縮力低下 1293
 尿崩症 1280
 尿路閉塞 1293
 ネフローゼ症候群 1292
 脳血栓 1298
 脳梗塞 1298
 脳出血 1298
 脳卒中 1298
 脳浮腫 1298

ハ行

パーキンソン病様症候群 1296
 肺炎 1289
 敗血症 1285
 肺高血圧症 1287
 肺梗塞 1289
 肺浸潤 1288
 肺水腫 1289
 肺線維症 1288
 排尿障害 1293
 肺炎 1288
 白質脳症 1298
 剝脱性皮膚炎 1282
 白内障 1294
 播種性血管内凝固症候群 1285
 白血球増多 1285
 発熱 1278
 発熱反応 1300
 汎血球減少症 1284
 皮質盲 1294
 鼻充血 1288
 ビタミン B₁ 低下 1282
 ビタミン D 欠乏症 1282
 ビタミン K 欠乏症 1282
 ヒダントイン症候群 1296

非特異的大腸炎 1291
 皮膚潰瘍 1284
 皮膚筋炎 1296
 皮膚硬化症様候 1284
 日和見感染 1299
 貧血 1285
 頻脈 1287
 ファンconi症候群 1293
 副甲状腺機能亢進症 1279
 腹部膨満 1291
 不随意運動 1298
 不整脈 1286
 舞踏病様アテトーシス 1297
 プロスタグランジン合成阻害性体
 液貯留 1293
 ヘモグロビン減少 1285
 ヘモグロビン尿症 1293
 偏執症様症候 1298
 便秘 1291
 扁平苔癬型皮疹 1284
 弁膜症 1287
 勃起不全 1293
 ポルフィリン症 1281,1282

マ行

マグネシウム喪失性腎症 1293
 麻疹様発疹 1283
 末梢神経症状 1298
 末梢性ニューロパチー 1296
 麻痺性イレウス 1292
 まぶしがり症 1294
 マロリー・ワイス症候群 1292
 ミオパチー 1295
 味覚異常・障害 1290
 耳鳴り 1295,1298
 無顆粒球症 1284
 無菌性髄膜炎 1297
 無呼吸 1289
 メトヘモグロビン血症 1285
 網膜出血 1294
 網膜症 1294
 網膜静脈血栓症 1294
 網膜剝離 1294

ヤ行

溶血性尿毒症症候群 1293
 溶血性貧血 1285
 葉酸欠乏症 1282
 羊水過少症 1293

ラ行

落葉状天疱瘡様症状 1284
 良性脳圧亢進症 1298

緑内障 1294
 リンパ腫 1285
 リンパ腺腫大 1285
 類天疱瘡様皮疹 1284
 ループス様症候群 1278
 冷汗 1287
 レイノー現象 1287

B. 相互作用薬物名

5-アミノサリチル酸 1336
 α_2 受容体刺激薬 1325
 β 受容体遮断薬 1321,1322,1328
 BCG ワクチン 1327
 CYP 2D6 阻害薬 1340
 CYP 3A 阻害薬 1341
 CYP 3A4 阻害作用を有する薬物
 1337
 CYP 3A4 阻害薬 1340
 CYP 3A4 誘導薬 1340
 G-CSF 製剤 1337
 H_1 受容体拮抗薬 1318
 H_2 受容体拮抗薬 1333
 HIV 感染症治療薬 1333
 HIV プロテアーゼ阻害薬 1321
 N-アセチルシステイン 1320

ア

アカルボース 1320
 アザチオプリン 1339
 アシクロビル 1334,1335,1339
 アジスロマイシン 1333,1335
 アスピリン
 1307,1309,1326-1328,1331
 アセチルコリン放出作用薬 1340
 アセトアミノフェン 1307
 アセトヘキサミド 1328
 アゼルニジピン 1322,1326,1333
 アゾール系抗真菌薬
 1321,1327,1337,1338
 アタザナビル
 1322,1332,1335,1337
 アデノシン 1319
 アテノロール 1321
 アトルバスタチン 1327,1342
 アドレナリン 1341
 アトロピン 1312,1340
 アトロピン系薬 1318,1323
 アバカビル 1334
 アプリンジン 1323
 アミオダロン
 1315,1323,1324,1331,1341
 アミカシン 1325
 アミトリプチリン 1313

アミノグリコシド系抗生物質
 1316,1317,1325,1332,1334,
 1337,1339,1342
 アミロリド 1338
 アムホテリシン B
 1309,1332,1334,1339,1342
 アムロジピン 1338
 アモキシシリン 1309
 アラセプリル 1326
 アルガトロバン 1330
 アルコール 1307,1311,1312,
 1315,1325,1334
 アルテプラザーゼ 1327
 アルプラゾラム 1311,1315,1335
 アルプロスタジル 1331
 アルペカシン 1325,1337
 アルミニウム含有薬
 1332,1333,1335,1339
 アレンドロン酸 1330
 アロプリノール 1315,1327,
 1329,1332,1336,1339
 アンジオテンシン II 受容体遮断
 薬 1324,1325
 アンジオテンシン変換酵素阻害薬
 1315,1324-1326,1328,1338,
 1339
 アンピシリン 1332
 アンブレナビル
 1324,1333,1335,1336,1341
 アンベノニウム 1318,1340

イ

イコサペント酸エチル
 1327,1330
 イソソルビド 1341
 イソニアジド
 1311,1315,1316,1329,1341
 イソフルラン 1326,1341
 イトラコナゾール 1307,1309,
 1310-1312,1318-1320,1322,
 1323,1326,1327,1330,1333,
 1335-1340
 イブプロフェン ..
 1307,1308,1321,1329
 イブリフラボン 1311,1313
 イホスファミド 1332,1336
 イマチニブ
 1309,1313,1326,1338
 イミプラミン 1313,1315,1318,
 1324,1325
 イリノテカン 1337
 インジナビル 1309,1311,1315,
 1322,1332,1333,1335,1336,
 1338
 飲酒 1336,1341
 インスリン 1328

インターフェロン
1327, 1334, 1339, 1340
インターフェロンアルファ 1336
インダパミド 1324
インドメタシン 1307-1310,
1321, 1324, 1325, 1326

ウ

ウロキナーゼ
1319, 1327, 1330, 1331

エ

エストラジオール 1339
エストロゲン
1313, 1317, 1321, 1328, 1330
エタクリン酸 1325, 1332
エタノール 1307, 1334
エチニルエストラジオール
1330, 1339
エトスクシミド 1316, 1342
エトポシド 1337
エナラプリル
1315, 1324-1326, 1328, 1340
エノキサシン 1307, 1327, 1333
エピルピシン 1337
エファビレンツ 1309, 1310, 1335
エフェドリン 1327
エフェドリン含有かぜ薬・鼻づま
り治療薬 1320
エリスロマイシン 1308-1312,
1315-1320, 1322, 1323, 1326,
1329, 1330, 1337, 1339, 1340
エルゴタミン 1308, 1333
エルゴタミン系薬 1308
エルゴメトリン 1308
エレクトリプタン 1308, 1309
塩化ナトリウム 1315
塩酸バルデナフィル水和物 1324
エンフルラン 1341

オ

オーラノフィン 1309
オキサプロジン 1315
オキシフェンブタゾン 1328
オザグレル 1319, 1327, 1331
オピオイド 1307, 1311, 1312
オフロキサシン 1333
オメプラゾール 1311, 1315,
1316, 1327, 1332, 1333, 1338
オランザピン 1313
オレアンドマイシン 1309, 1339
オンダンセトロン 1328

カ

カオリン-ペクチン 1320
陰イオン交換レジン 1339
ガチフロキサシン 1333
活性炭 1320
カテコールアミン 1320, 1341
カナマイシン 1316
カフェイン 1307, 1308, 1327
カプトプリル 1315, 1320, 1324-
1326, 1328, 1340
カベルゴリン 1317
カリウム保持性利尿薬
1325, 1326, 1338
カルシウム含有薬
1330, 1332, 1333
カルシウム拮抗薬
1321, 1327, 1328, 1337
カルバペネム系抗生物質 1315
カルバマゼピン 1308, 1310-
1316, 1322, 1329-1331, 1335,
1336, 1338, 1342
カルピブラミン 1318
カルベジロール 1320, 1321
カルペリチド 1320
カルボプラチン 1325, 1337
ガンシクロビル 1334, 1335, 1339
カンデサルタン 1325, 1326
漢方薬 1308, 1338

キ

キニジン 1313, 1314, 1316-1318,
1320, 1322-1324, 1328, 1331,
1333, 1337, 1340, 1342
キノロン系抗菌薬
1307, 1327, 1333
急性飲酒 1313
吸入麻酔薬 1326
強心配糖体 1319, 1320
筋弛緩薬 1317, 1332
金製剤 1309

ク

クアゼパム 1310
グアナベンズ 1325
グアンファシン 1325
クエチアピン 1312, 1316
クマリン系抗凝固薬 1330
クラリスロマイシン 1308-1310,
1313, 1316-1318, 1323, 1327,
1332, 1335, 1338, 1339, 1341
マクロライド系抗生物質 1339
グリクラジド 1329

グリセオフルビン 1331, 1342
グリベンクラミド 1328, 1329
グリメピリド 1329
グルテチミド 1331
グレープフルーツジュース
1309-1311, 1316, 1321-1323,
1326, 1330, 1335, 1337, 1339
クロキサシリン 1331
クロナゼパム 1316
クロニジン 1312, 1325
クロフィブラート 1329
クロミプラミン 1313, 1314
クロラムフェニコール
1315, 1329, 1332
クロルジアゼボキシド 1331
クロルゾキサゾン 1310
クロルフェニラミン 1318
クロルプロマジン 1312, 1313,
1315, 1317, 1318, 1321, 1324,
1325, 1327, 1328

ケ

経口避妊薬 1309-1311, 1313,
1318, 1321, 1327-1330, 1342
血管拡張薬 1321
ケトコナゾール 1329, 1331,
1335, 1336, 1341, 1342
ケトプロフェン 1307, 1333
ゲフィチニブ 1338
ゲンタマイシン 1316, 1325, 1337

コ

降圧薬 1321, 1326
抗血小板薬 1331
抗コリンエステラーゼ薬
1317, 1318, 1340
抗コリン薬
1311, 1312, 1317, 1318, 1323
甲状腺ホルモン薬 1330
甲状腺末 1328
抗パーキンソン病治療薬 1312
抗ヒスタミン系薬物
1312, 1318, 1325
抗不整脈薬 1324
酵母 1318
骨髓抑制作用を有する薬物 1309
コデイン 1341
コリン作動薬 1340
コルチコステロイド 1316, 1328
コレスチミド 1307
コレスチラミン 1307, 1309,
1320, 1330, 1331, 1339

サ

サキナビル 1310, 1322, 1333, 1335, 1336, 1341
 ザフィルルカスト 1331
 サフラジン 1308, 1314, 1320, 1341
 サリチル酸薬 1329
 ザルシタビン 1334
 サルファ剤 1331
 三環系抗うつ薬 1313, 1316, 1318, 1320, 1324, 1325, 1340

シ

ジアゼパム 1310, 1311, 1312, 1337
 ジギタリス薬 1319
 シクロスポリン 1307, 1320, 1322, 1325-1327, 1332, 1334, 1336-1339
 ジクロフェナク 1307, 1309, 1315, 1325, 1341
 シクロプロパン 1341
 シクロホスファミド 1317, 1334, 1336
 ジゴキシン 1319, 1320, 1324
 シスプラチン 1309, 1325, 1332, 1336, 1337
 ジスルフィラム 1331, 1341
 ジソピラミド 1321, 1323, 1324
 ジダノシン 1333-1335
 ジドブジン 1334
 ジヒドロエルゴタミン 1308, 1333
 ジヒドロピリジン系 Ca 拮抗薬 1321
 ジピリダモール 1319, 1327, 1331
 ジフェンヒドラミン 1318, 1321
 シプロフロキサシン 1311, 1313, 1327, 1333, 1339
 シベンゾリン 1323
 シメチジン 1309-1316, 1318, 1321-1323, 1327, 1329, 1331, 1333, 1336, 1339-1342
 小柴胡湯 1340
 硝酸薬 1321, 1341
 ジョサマイシン 1309, 1316, 1318, 1339
 シラザプリル 1324, 1326
 ジルチアゼム 1309, 1310, 1315, 1316, 1318, 1321-1324, 1326, 1327, 1330, 1338, 1339
 シルデナフィル 1320, 1326, 1341
 シルテプラゼ 1327
 シロスタゾール 1327, 1330, 1331

シンバスタチン 1326, 1333

ス

水酸化アルミニウム 1312, 1320, 1321, 1330
 水酸化マグネシウム 1320
 睡眠・鎮静薬 1307, 1311, 1312
 スキサメトニウム 1316, 1317
 スクラルファート 1320, 1331, 1333
 スコポラミン 1317, 1318, 1340
 ステロイドホルモン 1328
 ストレプトマイシン 1316
 スパルフロキサシン 1323, 1324
 スピロノラクトン 1325, 1326, 1338
 スペクチノマイシン 1317
 スマトリプタン 1308
 スリダク 1326
 スルチアム 1315
 スルピリド 1317
 スルファサラジン 1336, 1339
 スルファジアジン 1334
 スルファフェナゾール 1315
 スルファメトキサゾール-トリメトプリム 1309, 1315, 1328, 1331, 1332, 1334, 1339, 1342
 スルフィンピラゾン 1328, 1331

セ

制酸薬 1312, 1320, 1321, 1330, 1332, 1333, 1335, 1339
 西洋オトギリソウ 1335
 セビメリン 1340
 セファゾリン 1331
 セファマンドール 1331
 セファロスポリン系抗生物質 1331, 1332
 セファロチン 1325
 セファロリジン 1325
 セフォセリス 1331
 セフォテタン 1331
 セフォペラゾン 1331
 セフチゾキシム 1331
 セフメノキシム 1331
 セフロキシム 1331
 セボフルラン 1326
 セレギリン 1308, 1314, 1317, 1318
 線維素溶解薬 1327, 1330
 全身麻酔薬 1341
 セントジョーンズ・ワート 1320, 1323, 1335, 1338, 1339, 1342
 セントジョーンズ・ワート含有食

品 1308, 1338

ソ

ソタロール 1324
 ソテピン 1312
 ゾニサミド 1315, 1316
 ゾピクロン 1310
 ソマトロピン 1328, 1329
 そら豆 1318
 ゾルピデム 1309, 1310
 ゾルミトリプタン 1308, 1314

タ

タクロリムス 1325, 1332, 1339
 タナゾール 1316, 1339
 タナパロイド 1330, 1331
 タブソン 1342

チ

チアジド 1328
 チアジド系利尿薬 1315, 1317, 1319, 1324, 1325, 1328, 1329
 チアプリド 1317
 チーズ 1318
 チオテパ 1317
 チオリダジン 1307, 1311, 1312, 1314, 1323, 1324
 チカルシリン 1331
 チクロピジン 1315, 1316, 1319, 1327, 1330, 1331
 チザニジン 1317
 チモロール 1340
 中枢神経抑制薬 1315
 中枢抑制薬 1312
 チラミン含有飲食物 1318
 鎮痛薬 1307

テ

低カリウム血症を生ずる薬物 1317
 テイコブラニン 1332
 テオフィリン 1310, 1315, 1316, 1319, 1327
 デキサメタゾン 1307, 1308, 1310, 1329, 1330, 1332, 1335, 1338, 1339, 1342
 デシプラミン 1313
 鉄剤 1317, 1325, 1333, 1339
 テトラサイクリン系抗生物質 1317, 1332
 テノホビル 1334, 1335

デラビルジン 1309-1311, 1323, 1327, 1331, 1333, 1335, 1336, 1341

デラプリル 1326

テリスロマイシン

1310, 1313, 1320, 1326, 1327

テルビナフィン 1310, 1331, 1333

テルミサルタン

1315, 1320, 1324-1326

点眼用チモロール 1340

ト

糖尿病治療薬 1328

ドキシサイクリン 1332

ドキシソルピシン 1334, 1337

トスフロキサシン 1333

ドセタキセル 1337

ドネペジル 1318, 1342

トブラマイシン 1325, 1337

トラゾドン

1312, 1314, 1315, 1325

トラマドール 1307

トランドラプリル 1326

トリアセチルオレアンドマイシン

1308, 1316

トリアゾラム

1309, 1333, 1335, 1337

トリアムテレン 1325, 1326, 1338

トリヘキシフェニジル

1317, 1318

トリミプラミン 1314

トルブタミド 1315, 1328

トロンボキササン合成阻害薬 1331

ドンペリドン 1313, 1327

ナ

納豆 1331

ナテグリニド 1329

ナフシリン 1331

ナプロキセン 1321

ナルトグラスチム 1337

ニ

ニカルジピン 1321, 1322, 1326

ニコチン酸 1327

二硝酸イソソルビド 1320

ニシン 1318

ニソルジピン 1321, 1322

ニトレンジピン 1322

ニトログリセリン

1320, 1330, 1341

ニトロプルシド 1326

ニフェカラント 1324

ニフェジピン

1322, 1327, 1336, 1339

ニルバジピン 1322, 1339

ネ

ネオスチグミン 1318, 1340

ネチルマイシン 1325

ネビラピン 1331

ネルフィナビル 1309-1311,

1322, 1323, 1326, 1333, 1335,

1336

ノ

ノルトリプチリン 1312, 1313

ノルフロキサシン 1333, 1339

ハ

パクリタキセル 1337

パズフロキサシン 1307, 1327

バナナ 1318

パニペネム 1315

パパベリン 1317

バラシクロビル 1335, 1339

バルサルタン 1324, 1326

バルデナフィル

1323, 1325, 1326, 1333

バルビタール 1328

バルビツレート系薬物

1315, 1329, 1331

バルプロ酸 1311, 1313-1316

パロキセチン 1312-1314, 1317,

1321, 1323, 1340

ハロタン 1327, 1341

ハロペリドール 1307, 1311,

1314, 1318, 1324, 1327

パンクロニウム 1317, 1326

バンコマイシン 1332

ヒ

ヒアペネム 1315

ビール 1318

ヒカルタミド 1331

ヒスタミン H₂ 受容体遮断薬

1338

非ステロイド性抗炎症薬 1307-

1309, 1315, 1321, 1324-1326,

1339

ビスマスサブサリチレート 1332

非脱分極性筋弛緩薬 1317

ピタバスタチン 1327, 1338

ビタミン E 1339

ビタミン K 含有食品 1331

ビダラピン 1334

ビノレルピン 1337

ピモジド 1313, 1324, 1333

ピラセタム 1342

ピリドキシン 1317

ピリドスチグミン 1318

ピリメタミン 1334

ピルジカイニド 1323

ピレタニド 1325

ピロキシカム 1308, 1321

ピロヘプチン 1318

ビンクリスチン 1334, 1336

ピンドロール 1312

ビンブラスチン 1334, 1337

フ

ファモチジン 1338

フィブラート系薬剤 1326

フェキソフェナジン 1319

フェニトイン 1310-1312, 1314-

1316, 1319, 1320, 1322, 1323,

1328-1330, 1333-1339, 1342

フェニルブタゾン

1315, 1328, 1329, 1331

フェニルプロパノールアミン

1320

フェニレフリン 1320

フェノチアジン系薬物 1307,

1308, 1318, 1328, 1340, 1341

フェノバルビタール 1311-1316,

1319, 1322, 1323, 1329-1332,

1335, 1337, 1338, 1341, 1342

フェノフィブラート 1329, 1331

フェルビナク 1309

フェロジピン 1322

フェンタニル 1310, 1341

フェンブフェン 1307, 1333

副腎皮質ステロイド

1307, 1310, 1325, 1329

ブコローム 1331

ブスルファン 1336

ブデソニド 1327

ブメタニド 1325

ブラジカンテル 1333, 1336

プラスミノーゲン活性因子

1330, 1331

プラゾシン 1325, 1326

プラバスタチン 1326

プラシルカスト 1319

プリミドン 1316, 1342

フルオロウラシル 1315, 1336

フルコナゾール 1307, 1309,

1310, 1313, 1315, 1327-1329,

1331, 1334, 1339

フルシトシン 1334

フルチカゾン 1327

フルニトラゼパム 1310
 フルバスタチン 1315, 1326, 1331
 フルフェナジン 1313, 1314
 フルボキサミン 1308, 1311-1318, 1321, 1323, 1327, 1328, 1331, 1338
 フラゼパム 1310, 1312
 プルリフロキサシン 1307, 1327
 フルルビプロフェン 1307, 1333
 プレオマイシン 1337
 フレカイニド 1323, 1324
 プレドニゾロン 1307, 1329
 プロカイン 1317
 プロカインアミド 1323
 プロカルバジン 1338
 プロクロルペラジン 1311
 プロスタグランジン薬 1331
 フロセミド 1320, 1325, 1328, 1332
 ブロッコリー 1331
 プロトンポンプ阻害薬 1333, 1335, 1338
 プロパフェノン 1318, 1321, 1323, 1324, 1341
 プロブコール 1324
 プロプラノロール 1309, 1312, 1321, 1341
 プロベネシド 1307, 1309, 1324, 1329, 1333, 1334
 プロポキシフェン 1315
 プロポフォル 1310
 プロマゼパム 1311
 プロムペリドール 1312
 プロメタジン 1311
 プロモクリプチン 1317, 1339

へ

ペグインターフェロンアルファ-2a 1327
 ベスナリノン 1320
 ベタネコール 1340
 ペチジン 1341
 ペニシリン系抗生物質 1332
 ヘパリン 1319, 1327, 1330, 1331
 ペプチド系抗生物質 1332
 ペブリジル 1324
 ベラパミル 1309, 1310, 1314, 1316, 1318, 1321, 1322, 1324, 1326, 1327, 1337-1340
 ペリンドプリル 1326
 ペルフェナジン 1312-1314, 1324, 1341
 ペロスピロン 1309, 1313
 ベンズブロマロン 1331
 ベンゾジアゼピン系薬 1310, 1312, 1315, 1325
 ペンタミジン 1334

ベンツトロピン 1312
 ペントスタチン 1334

ホ

ホスカルネット 1334
 ホスフルコナゾール 1329, 1334
 ホスホジエステラーゼ阻害薬 1320, 1326
 ボツリヌス毒素 A 型 1317
 ポリオワクチン 1339
 ホリナート 1331
 ポリミキシン B 1317, 1332

マ

マグネシウム含有薬 1330, 1332, 1333, 1335, 1339
 マグネゾール 1328
 マクロライド系抗生物質 1309, 1311, 1313, 1316, 1317, 1320, 1327, 1337-1339
 マジンドール 1318
 麻疹・風疹ワクチン 1339
 麻酔薬 1341
 マプロチリン 1313

ミ

ミアンセリン 1314
 ミコナゾール 1309, 1313, 1315, 1322, 1323, 1326, 1328, 1329, 1331
 ミコフェノール酸モフェチル 1334, 1339
 ミダゾラム 1310, 1335, 1337, 1341

ミルク 1333
 ミルナシプラン 1314, 1318

メ

メキシレチン 1323, 1324, 1341
 メサラジン 1339
 メスナ 1332, 1336
 メチキセン 1318
 メチルテストステロン 1339
 メチルドパ 1312, 1315, 1325
 メチルフェニデート 1313
 メチルプレドニゾロン 1329, 1330
 メトクロプラミド 1311, 1313, 1320
 メトトレキサート 1309, 1334, 1336

メトプロロール 1321, 1322
 メトホルミン 1329
 メトロニダゾール 1323, 1331, 1336, 1339
 メナテトレノン 1331
 メフルシド 1325
 メルカプトプリン 1336
 メルファラン 1339
 メロキシカム 1308, 1309, 1315, 1324, 1328, 1329, 1330
 メロペネム 1315

モ

モサプリド 1340
 モノアミン酸化酵素阻害薬 1308, 1309, 1312, 1314, 1318, 1320, 1341
 モルヒネ 1312, 1340
 モンテルカスト 1319

ヨ

ヨーグルト 1333

ラ

ラタモキシフ 1331
 ラニチジン 1323
 ラベタロール 1321
 ラマトロバン 1330, 1331
 ラミブジン 1334
 卵胞ホルモン 1329

リ

リオチロニン 1342
 リザトリプタン 1309
 リシノプリル 1324, 1326
 リスベリドン 1312, 1313
 リセドロン酸 1330
 リチウム 1311, 1314-1318, 1324
 リドカイン 1341
 リトナビル 1308-1311, 1313, 1316, 1322-1324, 1328, 1330, 1332, 1335, 1336, 1338, 1339, 1341, 1342
 利尿薬 1320, 1329
 リバビリン 1331, 1334
 リファンピシン 1308-1312, 1314, 1315, 1319, 1322, 1323, 1326, 1328-1331, 1333, 1335, 1338-1340, 1342
 リマプロスト 1331
 硫酸アタザナビル 1333